

議長（中西 康雄君） 定刻となりましたので、休憩前に引き続き、会議を開きます。

（午後 1時 00分）

一般質問

議長（中西 康雄君） 定刻となりましたので、休憩前に引き続き会議を再開をいたします。

日程第 52 一般質問を行います。

順番に発言を許可します。

10 番 大西 慶治 議員

議長（中西 康雄君） 通告順 1 番 大西慶治議員の発言を許可します。

大西議員。

10 番（大西 慶治君） まず紀勢道延伸と奥伊勢パーキングについてということで質問をさせていただきます。中に一部名称の部分も含めさせていただきますので、よろしく願いをいたします。私は平成 19 年の 3 月議会の一般質問におきまして、このパーキングエリアでの特産品販売についての質問をしております。大宮、大台そして紀勢間が 20 年度の開通に伴い大台町川添地内にできるパーキングを利用して、地域の看板、物品販売施設の設置を高速道路に申請してはいかがか、そのような質問をいたしました。

その時の答弁に町長は高速道路のほうに働きかけているけれども、粟生から南はトンネルやカーブ

が多いのでつくりにくい現状である。しかし場所が良いところであるので、その事について努力していきたい。また損益分岐点のこともある。しかし販売所ができるようにしっかり働きかけていくというふうな前向きな答弁をいただきました。

そのパーキングにおきましての販売施設がこの2月5日に、奥伊勢パーキングの中で実現をみました。それまでの努力につきましては産業課さん、また大台、大紀両商工会、そして関係各位の敬意を表するところでありますけれども、その中におきましての物品販売につきましては、すこぶる好調であると、そのように伺っております。

高速道路がこれからますます南へ南へというんですか、紀州のほうへ延伸をしまいであります。またこれからは正式には今月の28日の土曜日からですけれども、土曜日、日曜日が高速道路がどこまで乗っても千円でいけるんだというふうな予算が、この間、通っております。23年3月までの事だそうですけれども、また無料になるのではないかな、そのような流れもあるように思うわけでございます。紀勢道の紀勢大内山から南への紀伊長島に向かったの工事も、今どんどんと進んでおりまして、2012年度には紀伊長島までが開通されます。また尾鷲から先は高規格道路、無料の道路だというふうに言われております。

そうならばこの42号線の交通量というんですか、ますます減少というものが予想されるわけでございます。この紀勢大内山まで延伸したことによりまして、42号線沿いのガソリンスタンドでは、県外ナンバーの給油車が、県外ナンバーがなかなか入ってきてくれないというふうな事を言っておられました。そしてこの2月7日に行われました開通式の挨拶の中でも、来賓の方が地域の店も心配である。しかしある意味でチャンスでもあるのだというふうな挨拶がございました。

そこで私は、奥伊勢パーキングでの物産販売というのはもとよりのこと、大台町の売り込みの場所として、その役割はこのパーキングが非常に重要になってくるのではないかと、そのように思っております。このパーキングに寄っていただけるお客さん方に、大台町をいかにアピールしていくのか、大台町の良いところをいかにわかってもらうのか。お茶の町大台町をいかにアピールしていくのか。お茶のお茶つみ体験でありますとか、このパーキングではイチゴが非常に好評で売れておるというふうなことで、イチゴ狩りでありますとか、また秋には紅葉の大杉谷またはフォレストピア、そして大杉谷自然学校で交流をしてもらう、こういったものの売り込みというものは、このパーキングでしていく必要があるのではなからうかと思っております。

例えば町外の人から大台町の風景写真を募集するとか、それは賞品をつけてパーキングに展示する、こんないい所があるのが、大台に行ってみたいなというふうなことの紹介する。それから8チャンネルとかうちの行政チャンネルでもやっておりますけれども、ごみかけ祭りでありますとか、またそ

ういった事にも行かなくても、地域の非常にめずらしいお祭りなんかもあります。そういったものをこのパーキングにおいて、動画でありますかと、写真またはパンフレットなんかで紹介していく必要があるのではないかなと思います。

そういった意味ではこのパーキングはこの大台町にとって、磨けば光る宝物ではないかな、そのように思います。この19年3月の答弁の中に町長は、まちづくり提言書の中にこういうことが書かれているんだということで、大宮、大台まで高速道路が開通した後、道の駅への観光バスの立ち寄りが極端に減っていると、この中に記述されている。これを受けて、これが紀勢までいけばますます大台、大宮で降りないわけで、それをこのパーキングで止めて、いわゆる川添にできました奥伊勢パーキングで止めて、販売していけばお茶もシイタケもそして他の産業も生きていけるのではないかというふうな答弁もされております。

南三重の玄関口として位置づけされている大台町の魅力を、もっと掘り下げて都会の皆様は大台町に来てみたいと思っていただける、魅力ある地域づくりを行い、過疎の町ではなく勢和、多気あるいは大宮、大台で降りていただけるよう南三重が一丸となって取り組んでいく必要があると答弁をされております。

パーキングで販売していただいております店員さん方、また責任者の方々についてもここで売れたらいいんだではなくて、売れたものの体験をお茶にしる、苺にしる、その体験をしに大台町に来てください。大台町の商品を体験して、大台町に降りて大台町に来てくださいというふうなことをアピールしていく必要があるのではないかなと思います。

この宝石であると思うこのパーキングを、しっかり磨き、大宮大台インターで降りて左折していただく、これが今後の大きな課題だと思います。単にパーキングで売れる、よく売れるんだ、それだけで喜んではいけないのではないかなと思います。南三重の将来はこのパーキングが、そして大台町が握っているのではないか。

議会の質疑等の答弁で町長、パーキングにかける思いは聞いておりますけれども、町しても3,000万円を出資している大台町としての思いを、この町民に向かって聞かせていただきたいと思います。

またこのパーキングにできたお店ですけれども、名前があると思うんです。会社の名前というんですが、その名前をお教えいただきたいと思います。夢物語というんですか、そんな馬鹿なというふうなことを思われるかもしれませんが、できることからパーキングにETCを付けて、大台町に出入りできたら、これは大台町としては9回裏逆転ホームランになるのではないかな、そのような思いもいたしますし、仮の話ではございますけれども、高速道路が全線無料になるということになれば、このパーキングから出入りできるように努力すべきであると思いますが、いかがでしょうか。

それと名称の件でありますけれども、今更でありますけれども、パーキングの名称にいたしまして、奥伊勢パーキングであります。純然として大台町地内にある施設であります。大台町パーキングまたは奥伊勢大台パーキングがベストだと私は思う。それが大台町を売り込むのにも、役にたつのではないかなと思います。嬉野にしたって多気にしたって、地名でございます。

私、先日パーキングに立ち寄りまして。そこには旗が4、5本立っておりまして、その中に「ようこそ大紀」へというふうな旗が、上下2本ずつ立っておりまして。非常に目立つ旗でありましたけれども、その旗の前で私は2、3人の人にこのパーキングは何町にありますかご存じですかと聞いたところ、知らないという人とか、大紀町だという人とか、大台町だという人とか、色々ありました。この大紀町だと言われたその前に、ようこそ大紀へという旗が立っておりまして、たまたまでありましょうけれども、私としては非常に寂しい思いをしたわけでございます。

私は今まで何回かこの議会において名称について質問をしてまいりました。3年前には字菅合で一括している下菅、川合、滝広をそれぞれ字にしてはどうか。また滝原駅は大台町ですよ、また12月議会においては字名の看板の設置、私にしたらここはどこなんだということは、大きな問題であると認識しております。また大宮大台インターについても18年3月議会で、この名称についての質問をしております。インターチェンジの名称を大台インターが駄目なら、奥伊勢としたらとの地元、これ川合の人からの提案でございましたけれども、高速道路は地域の名前をつけるので駄目だと言われた経緯がございます。

しかしながら、付いた名称は大宮大台でありました。私はこの時の質問の中でも大宮という地名はないんだと言った記憶がありますが、しかし私が言ったメインの思いは、大宮を付けるのが駄目ではなくて、大台大宮ではなんでないのだということでございました。

町長はその時の答弁の中で、紀勢まで延伸した時がひとつのチャンスかと思うので努力をすると答えられました。私は今更名前を変えるなどということは大変な経費もかかり、いわゆる車のナビゲーションでありますとか、地図その他のことも考えますと、今さら変えるということは不可能なことであると思いますけれども、町長は努力すると答えられました。その中で先日川合の人が来ていただきまして、大西さんあの話どうなっておるのやなというふうに聞かれました。私は色々こういう事情で無理なんじゃないかなと思うということを言いましたけれども、町長は努力すると言われたんやから、一回聞いてくれというふうなことでしたので、このことについてもご答弁を求めたいと思います。

この質問をするに關しまして、3年前の私の質問をビデオでしっかりと見直しました。その中で私は紀州の人に42号線一本では大雨や台風で陸の孤島になる恐れがある。その人たちのことを思えばこの入り口の川合が、当時ちょっと池の埋め立てとか土地のことで色々ありましたので、もめていたら

道は付かない。それでは気の毒だ、紀州の人にとっては命の道だと、そのように発言をしております。

今回、中日本高速道路会長 矢野弘典氏が2月15日の中日新聞に式典後、これは2月7日の開通式の式典のことですけれども、地元主催の祝賀会で多くの方から高速道路への熱い期待、とりわけ命の道のお話を伺い励まされた、ここから南へ向かう沿線は豪雨地帯で国道42号線はしばしば通行止めになり、陸の孤島となってきた。救急医療、出産、災害などの緊急事態に対処するには、雨に負けない高速道路は地域の必須の生命線である。紀勢道の延伸で必ず紀州方面への観光客は増える等々、寄稿されております。

私はその通りであると思います。しかしできるまでには地域の人たちが、この19年に質問もいたしましたけれども、大変な思いをしておるところでございます。そこでそのインターの名称なんでございますけれども、当時このインターは起点からして下りが先に付くので、大宮が先なんだ、勢和多気がそうでしょうというふうな話を伺っておりました。この事は町長の答弁の中にはございませんけれども、そういうふうな話を伺った中で、それではある意味、大宮はないけれども、大宮が先に付くのは仕方がないのかなというふうに、私としては理解したわけなんですけれども、ところが今回紀勢にできたインターチェンジは、これは大内山大紀ではなく紀勢大内山となっております。それを聞いた時に私は、大宮という町名がない中で、どうして大台が先やなかったんか、今でも釈然としていない思いがございます。

勿論町長の権限の及ぶところと及ばないところは、私は十分理解をしておりますけれども、以上のパーキングの事も含め、名称の事も含め、町長の見解をお聞きしたいと思っております。

議長（中西 康雄君） 町長。

町長（尾上 武義君） それでは紀勢自動車道の延伸とパーキングについてお答えをいたします。昨年5月に大台町、大紀町から代表者をそれぞれ5名を選出し、紀勢自動車道のパーキングエリア開業準備協議会を立ち上げながら、本格的な協議を行ってきたところでございます。

12月定例会で出資金もお認めをいただきまして、1月22日には会社を設立するとともに、従業員

の面接あるいは出展品目の選考などを行い、従業員については道の駅奥伊勢おおだい、あるいは奥伊勢フォレストピア等で、短期間ではございましたんですが、研修を行いまして、なんとか2月5日の開業にこぎ着けることができたところでございます。

同じく7日に紀勢大内山インターまで高速道路が延伸しましたので、交通量は増加傾向にございます。詳しい台数につきましては把握しておりませんが、開通以前は1日平均上下線で5,200台程度の通行量でございましたんですが、オープン後の週末は上下線で1日1万台を超えたと、そういう日もあったようでございます。

今後更に高速道路が南進をしますと、除々にですが、交通量は増加していくものと期待をいたしておりますが、逆に国道42号の通行量が減少傾向となってまいります。特に仮称でございますが、紀伊長島のインターから南は、国の新直轄及び直轄事業で、通行料金は無料区間でありますので、東紀州地域の道の駅等の施設関係者は高速道路開通により、利用者が激減するのではと懸念をしておるようでもございます。

そもそも奥伊勢パーキングは物販や飲食の提供だけではなく、大台町や大紀町を中心に広く南三重地域全体のPR活動を積極的に展開する役目がございまして、立ち寄り客に地域の情報を提供し、勢和多気及び大宮大台インター等で降りていただく努力がもっとも重要と考えているところであります。

今後は道の駅奥伊勢大台や奥伊勢フォレストピア等の観光交流施設の連携を強化するとともに、大台町観光協会とも連携し、イベント企画等も計画しながら、奥伊勢パーキングの立ち寄り率を高めてまいりたいと考えているところであります。また物販商品につきましては、両町の生産者を中心に、多くの皆様にご出展いただいているところでありますが、オープン間もない特需ということも考えられますが、予定をしておりました売上は今のところ達成している状況でございます。手狭な売り場ではございますが、お客さまのニーズを的確に把握しながら、品ぞろえや陳列等に工夫を凝らし、売上の向上をめざしてまいりたいと思います。食堂のオープンにつきましては、できる限り早めまして店舗全体の収益率の改善も図ってまいりたいと考えているところでございます。

パーキングの名称についてでございますが、色々意見はございました。しかし私は今回の事業は大台町と大紀町がともに応分の負担と責任を負いながら、共同して地域活性化事業に取り組んでいこうという足掛かりとなったことは確かでございます。これから観光客のニーズに応えるには、両町が更に連携しながら、広域での観光交流事業による活性化を図っていくことが、非常に大切であると考えております。

その中でもっとも重要な施設として、位置づけられておりますこのパーキングは、大台町と大紀町全体がイメージできる、奥伊勢というのが最適であると判断し、大紀町とも相談しながら決定したと

ころでございます。議員からは今まで色々な形で名称についてはご質問いただいております。これもふるさと大台町を愛するが故のご質問と思っております。

大宮大台インターチェンジの名称決定に至った経緯につきましては、私は旧宮川の首長でございましたので、詳しくことはその当時は存じておりませんが、18年3月議会で努力するとお答えをさせていただきました。国交省の話によりますとインターチェンジの名称につきましては、まず関係する町で協議し決定していただくというのが、まず第一義的にあるようです。

それでも決まらないというような場合は起点に近い、この場合は和歌山県側が起点になりますので、その起点に近く立地する地名を、今で言いますと大宮というふうなことでございますが、地名を先に付けているというようなことでもございました。

私か就任してから中日本高速道路等の関係機関に名称変更についての協議もさせていただいたところでございますが、名称を変えることで、全国的なシステムあるいは看板、印刷物の変更など多くの経費と労力が必要となるというようなことで、数多くの問題が生じるということで、なかなか名称は変えることはできないというようなことでございましたので、この点ご理解をいただきたいというふうに思います。

また当然このパーキングがこの地域の重要な発進拠点ということで位置づけてもおります。これ南三重地域の全体でも言えることなんです、そういう発信拠点という位置づけの中で、まだ立ち上がったばかりでございますので、十分なところまではいっていない部分はあろうかと思っております、今後十分その意を組み合わせながら対応してまいりたいというふうに思っております。

パーキングの名称でございますけれども、会社の名称でございますが、株式会社奥伊勢ハイウェイパークと、こういうような名称でございます。パーキングから出入りできるようなシステムというふうなことに、お話ございましたんですが、これはなかなか地形的な部分から、非常に困難な部分があるかと思っております。これはまずできないと思っております。

ただこの高速道路が延伸してきますと、いわゆる高速バスですね、これらの需要が高まってくる部分があるのではないかなと思っております。そういう意味でこのバスの停留所と言いますか、そういうようなものは考慮しているところでございます。これは今後の検討課題というふうなことで位置づけているようなところでございます。

しかしながら、このパーキングを通じて要はこの大台町の地域、あるいは大紀町なり大台町の地域をどのように引っ張りこんでくんかと、そのことが大事でございまして、そのことは最善から申し上げているところでございます。そういう意味でその受け皿をどのようにつくっていくのかということが、非常に大事なんです。この間も私、パーキングに寄って色々話を聞きましたんですが、どこそこ

行きたいんだというふうなことなんですか、その地名とか、状況とか、そういったようなことがまだまだパーキングの社員ではわからないところが多いんですね。そういったような教育も含めて、しっかりとお客さんに対応できるような形にもっていかなというふうに思っております。

そういうことで、会社のほうにそのように申し上げつつ対応は充実していかなければならないと、こう思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

議長（中西 康雄君） 大西議員。

10番（大西 慶治君） るる説明をいただきました。あの場所から車で出入りするということなことは、これは町長の言われるように、私も無理であろうかと思えますけれども、そうできたらなという思いでございます。

それともう一つは、車で出入りできなくても、あの北側というんですか、上り車線の左側の山は、これから山桜のすばらしい景色がございます。車は出入りできなくても、人がちょっと出て、あの裏山のほうへ向いて、勿論山には持ち主がおって、そんな私のような簡単にいかないと思えますけれども、あそこにすぐ裏に実は階段がついております。あの山に対してその階段をこの間のぼってみましたら、250段あってふうふう言いましたけれども、これが山桜の花が咲けば、もう一度来たいなというふうなところでありました。

そういうことも含めて、あそこを車ではなくて人だけでも出入りできたらなというふうに思います。会社の名前が株式会社奥伊勢ハイウェイパークというふうな名称とお聞きしましたけれども、パークと言いますと広場とか公園とかという意味を表しておるんじゃないかなと思います。その公園という意味からしても、そういうようなことから、人だけでも出入りできるようになればなというふうに思いますが、そのことについてもひとつ検討をしていただきたいと思えます。

それと採用にあたってのことですが、人事について言及することは避けたいと思えますけれども、いわゆるともに大台と大宮と3,000万円を出しておる町といたしまして、それぞれの作業人員のバランスというものはとれているのか。これは応募した数とか、採用のテストの結果もあると思えますけれども、そののところをひとつお聞きしたいと思えますし、大変にこの間いきましたら、忙しいよう

でございました。店長さんに聞きましたら、2キロやら3キロ減ったよとかというような話をしておりましたけれども、当初のことでありますから、先ほど町長も言われてましたように、最初からそんなに何もかもうまいこといく筈がありますせんけれども、そういったこと健康管理とか、いわゆる私は労働基準法についてうんぬんというようなこともこの場で言わせてもらったことありますけれども、そういうことについての労働条件は万全かと思えますけれども、確認をしたいと思えます。

それから非常に細かい話でまことに恐縮なんではございますけれども、このパーキングに寄ってパンフレットをちょっと見せてもらいました。いろんな素晴らしいパンフレットが多くある中で、特に私は町内のことが気になりまして、町内のパンフレットを見てみました。ところがその中に宮川村のパンフレットが2種類混ざっておりました。宮川村特産品加工所と、特産品のものですがけれども、ここにありますが、実はこれに注文書が付いておまして、この注文書は宮川物産にいくようになっておりますけれども、切手も貼らなくてもいいという期限が、もう既に4年も5年も過ぎておるものでございます。

それはともかくといたしまして、このパンフレットの中の商品ですね、この商品は今でも同じようにあるのか、値段は変わっていないのか。そのような変わっていないからこれも出しておるのだと思いますし、多気郡宮川村でも十分はがきは届くかとは思いますが、やはり大台町というものの中にある施設、それから宮川物産も今は大台町にある施設であります。もったいないという部分もあるかと思えますけれども、ちょっとこの上になんかシールとしか貼るとか、なんとかの対策をしていただくとか、もう既に取り除いたよというふうに言われるのかもしれないけれども、そういうことについても一つ考慮いただきたいと思えますが、この事についても少し答弁をいただきたいと思えます。

議長（中西 康雄君） 町長。

町長（尾上 武義君） 裏山のほうに人だけでも出入りできるようにというようにございまして、私もそうならばいいなと思っておるんですが、それを目当てにどれだけの人が来るかというようなこともございまして、ましてや上りというふうなことでもございまして、ど

んだけ人が来るのかなというようなことが当然、忙しい人らがその高速道路を走って、中にはどっか行きたいんやけどというような人もおるかもしれませんけれども、それはごく僅かやないかなというふうに思います。

立ち寄っていただいた時に、そのあたりの景観なり景色を眺めていただくような程度かなというふうには思っております。また従業員の採用にあたって、これは両町から開業準備委員会の人たちが、採用試験をしていただいた、こういうようなことで地域バランスとか、そういうことはどのように考慮されたのか、私も伺っておりませんので、結果的に一人か二人は大台町のほうが多かったのやないかなと思うんです、トータルとしては。そういうようなことでできております。

また健康管理等の部分なんです、勤務時間が一人だいたい6時間ちょいというようなことでございまして、それを2交代でやると、こういうことで来ておりますので、土日祝日等はかなり混んでくる部分はあるかと思いますが、勤務時間そのものがそんなに長くはございませんので、当初はそれは大変神経的にも疲れる部分はあるかと思うんですけれども、しだいに慣れてきたら、そこらへんでいいのではないかなと思います。

健康管理等に十分これは注意をしていかなければいかんわけなんです、これも会社として対応していただいておりますと大本になってきますので、そこら辺はちゃんと対応していただいております。

またこのパンフレットで宮川物産の関係で、結構古いパンフレットが入っておって、中には宮川村というようなことで入っておったというふうなことなんです、ここらへんもしっかりときちんとしたものをらせるようにやっておかんと、あるもん出しておけぐらいのことでは、とんでもないことにもなりますので、十分気をつけてやっていきます。

議長（中西 康雄君） 大西議員。

10番（大西 慶治君） 次に移ります。大台町立図書館について質問をさせていただきます。この質問にあたりましては、大台町のホームページまたは図書館のホームページ、そしてまた図書館への聞き取りをした中で、私の思うところをお聞きしたいと思っております。この図書館は旧大台町が平成 14

年4月に旧庁舎の別棟を移動させて図書館として開館したものであります。

もともとは今の消防署、道をはさんで消防署のほうにあった大台町の議会があったものを、こちらに移して開館したものでございます。土地そのものは借地でございます。この図書館のホームページに心豊かに新しい出会いの空間というのが図書館のホームページの中に出ております。

そこで大台町の第一次総合計画の中の町長の挨拶の中に、町民が主役のまちづくりを基本に今10年間の町政運営の指針となる第1次大台町総合計画を策定した。総合計画では町の将来像を、自然と人々が幸せに暮らす町と定め、町民の皆様と協働によるまちづくりをめざすことにしています。その計画の策定にあたりましては、町民の皆様を対象にしたまちづくり、町民アンケートの調査を実施するとともに、町民の皆様113人の参画を得て、5つのテーマのまちづくり分科会を設置し、およそ10カ月にわたり、これらのまちづくりについて議論をいただき、多くの願いと思いを織りまぜてつくりあげました。

今後はこの総合計画の実現をめざして、各種施設を積極的に展開するなど、最大の努力をしておりますので、ご理解とご協力をというふうなことを町長はの中で述べております。

その中の教育文化振興のまちづくりというものの中に、全国的にも成熟した社会の中、経済的な豊かさよりも心の豊かさを求めることが多くなりました。生産中心の社会から人間中心の社会に変化し、価値観や生活様式が生産だけに規定される社会から、それぞれがそれぞれに自己を実現していくことをめざし、個性や自分らしさを発揮することが、新しい価値観として求められるようになっていきます。

本町でもこれまで時代の流れや社会背景ニーズなどにより、様々な教育活動を進めてきたが、人々が共に生きる喜びを感じられるためには、これまでの取り組みをふりかえるとともに、人と人と、人と物、人と営みをお互いにつなげていくことが大切になっていきますと記載され、施策の方向性、主な事業の中に図書館を充実するため施設の有効活用を図るなど、魅力ある図書館の整理を検討します。

また図書館司書の資質向上のため、研修機関への拡充を図り、町民のニーズにあった祝日、夜間開館、また移動図書館等を検討し、利用の拡大を図りますというふうに、この中には記載をされております。

また、この最初に言いましたアンケートの結果では、この部分の抜粋だけで恐縮でございますけれども、アンケートの配布は1,974、回答が1,054、回答率が53.4、町立図書館の充実、緊急を要するというものが、その中で22.2パーセントあったということが記載をされております。

そして現在のこの大台図書館の現状なんでありましてけれども、年間の利用者数が入館していただいた方が9,682人、そして貸し出した、本を借りた人の人数が7,108人、そして貸出冊数、何冊借りたか、1人の人が重複して何冊も借りていただいております。4万3,768冊となっております。

す。また公的借出し、これは公民館ですけれども、毎月 400 冊から 500 冊の図書を入れ替えておる。そして各小学校に毎月各学年、たぶん 1 学年から 6 学年までやと思いますけれども、各学年に 30 冊の入れ替えをこの図書館はしております。保育園に 50 冊から 70 冊の入れ替えをしている。

読み聞かせの会というのがありまして、これは図書館で 11 回行われた。20 年度のことでありましてけれども、これに参加児童が 74 名、また会員それから保護者の方、ボランティアの方など 156 名の方がこれに参加してもらっておるということでございます。

また図書館の仕事の中、これは協働、協力の中でありますけれども、ブックサートという事業がございます。これは子育て支援センター事業への協力ということで、福祉課との共同ということになっておりますけれども、ブックサートというのは赤ちゃんが絵本等を介して親子がふれあう一時を持つと、赤ちゃんと本と親がつなぐという重要な役割の事業も、この図書館で行われているそうでございます。そして年間の図書購入費につきましては、これは 20 年度も 21 年度も 380 万円が見込まれております。あくまでも参考であります。多気町におきましては図書館が二つございます。多気の役場の近くについ最近新しく、非常に立派な図書館ができました。ここには 5 万 3,856 冊があり、勢和の図書館、これは勢和村が勢和村の時につくった図書館ですけれども、大変立派で当町からも多くの方が利用されておるといふふうにお聞きしておりますけれども、ここには 7 万 7,392 冊の蔵書があるといふふうなことで、この二つの図書館にそれぞれ 665 万、合計 1,330 万円の予算をみておるようでございます。

そこで私が問題としたい、その事は図書館は物理的にこれは狭い。書架の上にも、書架というのは本棚のことですけれども、本棚そのものが 170 センチあります、一番上の段まで。170 センチと言いますと小学生でありますとか、私などは 1 m60 ちょっとしかありませんので、一番上の本が非常に見にくい状態でありまして、そして本の配置、本を並べるスペースも限界でありまして、限界であるが故に公開していない、開架していない本というものがありますが、その本のスペースも満員に近い状態である。

その満員に近い閉架、隠されていると語弊がありますが、しまわれている本が約 5 千冊あるんではないかな、この 5 千冊についてはリストもつくって、こういう本がありますということは貼りだしてもらっておりますけれども、なかなか見にくく最後まで日の目をみなさいというリスクがあるんではないかなと思います。

それから学校図書の支援状況ですけれども、先ほども少し触れましたけれども、7 つの学校に 3 名の司書が 1 週間に 28 時間を必要とする。この 28 時間というのは図書館開館時間の約 60 パーセントにも及ぶ、このことによりまして、図書館に司書がない時間帯があるということのを伺ってまいりまし

た。

以上の状況を踏まえてこの司書にとって大事な研修の機会が失われているということでございました。元々借地に既存の建物での町立図書館でございます。本来の公立の図書館としての機能を発揮しているのか、疑わしいところがございますけれども、この10年先を見すえた中で、新しいところに新築しろというふうな予算的なことから考えて、それは言いませんけれども、文化施設そのものを検討する中で、ひとつ例えばB & Gでありますとか、それから屋根の修理の予算が出ておりましたけれども、就業改善センターでありますとか、ここの方が少し大きいんじゃないかなと、こういうところを利用して図書館として利用できないか、色々補助金とか制約とかあるのだと思いますけれども、私としてはそのように思います。

それから図書司書の待遇改善と研修機関の拡充を図り、祝日、夜間の開館により利用者の拡充拡大を図るべきであると思います。重複する部分はお許しをいただきたいと思います。そこで大台町の図書館の現状、先ほども少し触れましたけれども、それと公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準というのがございまして、その望ましい基準からいきますと、大台町の図書館の延べ床面積が402㎡、望ましいとされるのが1,158㎡、蔵書、図書は望ましいとされるのは6万8,249で開架冊数いわゆる表に出ているものが、先ほど言いましたけれども、2万4,505冊、望ましいとされるのが5万5,554、年間受け入れ図書、これは購入図書でございますけれども、大台町が2万54冊、望ましいが5,278冊、大台町の場合2,054冊であります。

年間講読、雑誌なんですけれども、これが大台町が126点、望ましいとされるのが384点、特に私がこれはどうかなと思うのが視聴覚資料なんですけれども、望ましいとされるのが2,270点に対して、大台町の図書館には一つもないというふうなことでございます。

図書購入費は先ほど言いましたように380万円でございますけれども、望ましいとされるのは1,277万6,740円、多気が近いんじゃないかなと思いますけれども、それと職員数の問題、望ましいとされるのが6人、大台町が4人でありますけれども、21年度の予算の中ではこれが1名増えるというふうなことでございますけれども、なお低いのではないかなと、そのように思います。

そういった中で貸出件数が大台町の場合は4万3,768冊、先ほど言いましたけれども、望ましいとされるのが15万1,388冊となっております。おおむね大台町の場合3分の1、該当しない部分はありますけれども、3分の1ではないかなと、そのように思われます。非常に低いんですけれども、ところがこの380万円という予算を1,000万円に増やして本を買ったら、どうなるのか。

図書館としてそれを開架できない、そのような状況であると思います。予算が少ないということも言っているのではなくして、図書館そのものを少し考え直すべきではないか、そのように思うわけな

んですけれども、以上を含めまして望まれる今後の大台町の図書館の振興策というものを、町長または教育長にお伺いしたいと思います。

議長（中西 康雄君） 尾上町長。

町長（尾上 武義君） それでは町立図書館について、お答えをいたします

。1点目の総合文化施設を検討する中で、一体化した魅力ある図書館を整備すべきではないかということでございますが、現在の図書館は平成14年4月に旧の役場分庁舎を再活用して、図書館として開館した建物でございます。図書館システムにつきましてはコンピューター管理による貸出及び図書検索など、充実はされておりますけれども、書架等の開架スペースが狭いのが現状でございます。

将来的には図書館を中心とした総合的な生涯学習施設が必要であると考えておりますけれども、まず段階的に他の公共施設を図書館として、有効活用できないか検討しているところでございます。

2点目の図書館司書の待遇改善と研修機会の拡充をはかり、祝日や夜間の開館によって利用拡大を図るべきということでございますが、職員の業務体制の改善策としましては、昨年4月から館長を配置しまして、司書職員3名の計4名体制で図書館業務を運営しているところであります。

またこの体制で町内各小中学校7校ありますが、児童生徒の読書の取り組みを推進するために、司書職員が学校に出向き、読み聞かせ、それから図書の紹介、図書の整理等の支援を行っておりますけれども、職員の研修会への参加も必要なことから、21年度当初予算におきまして司書職員1名の増額予算を計上したところでございます。

また祝日夜間の開館については、現在の図書館の利用状況やあるいは利用者のニーズを考慮しながら検討していかなければならないと考えております。

3点目の移動図書館を創設し広く町民に活用機会を増やすべきということでございますが、現在町立図書館では移動図書サービス業務として、グリーンプラザおおだいの図書コーナー及び健康ふれあい会館図書室に毎月、定期的に図書の入れ替えを行いながら、幅広く地域の皆さんにご利用いただくことにしております。また町内各小中学校、保育園におきましても、要望によりましてまとまった冊数の図書貸出を行いながら、利用拡大を図っているところであります。

4点目の図書館設置の現状と図書館の標準についてでございますが、図書館設置基準の規定はございませんが、図書館が図書館として機能しうる最低限の規模は、延べ面積で800平米であり、蔵書が5万冊、専任職員数が3名というのが最低限の規模であると言われております。

これに比べまして、大台町立図書館は延べ面積が423の建物、それから蔵書が約3万冊、本来の機能を十分発揮できる施設ではないことから、開架スペースの確保のために増築も考えたわけではございますけれども、敷地は借地でもございまして、全体の面積も狭いということで、費用対効果を考えてみましても、現状以上の効果はあまり期待をできないということでございます。

1点目で述べましたように、まず他の公共施設を有効活用できないか検討しているところでございます。また視聴覚等の機器及び資料が皆無とのことでございますが、機器との配置は現状のスペースでは難しいのではないかと考えております。

最後に今後の大台町立図書館の振興策ということでございますが、将来的には町立図書館を拠点とし、小学校、中学校、そしてグリーンプラザおおだい、ふれあい会館および荻原公民館などの学校施設や、社会教育施設を図書館システムのネットワーク化によりまして、各図書館の管理を行いながら、貸出及び図書検索等の利便性の向上を図ることを検討していきたいと考えておりますので、ご理解をお願いしまして、答弁といたします。どうぞよろしく申し上げます。

議長（中西 康雄君） 大西議員。

10番（大西 慶治君） 町長言われるように、非常に狭い。狭いからそのDVDであるとか、視聴覚資料を置けないんだということであります。確かに狭いんでありますけれども、ところが新年度予算の中にですね、いくらですか、55万なにがしの木製の書架というふうなことが出ておりますけれども、あの狭い中でまだ書架を新しくつくるのか、またはなんか古くなって入れ換えるのか、そのことについてちょっとお伺いしたいと思います。

またゆっくりとできれば、ゆっくりと図書で勉強するとか、研修するとかというふうなスペースというものを考えた時に、いま既設のほかの施設をというものを考えておるということでございましたけれども、その事については本当に真剣に取り組んでいただく必要があるのではないかなと、そのよ

うに思います。

とりあえずこの新しく新年度予算の中にあります55万7千円ですか、これについて新しくつくるのか、または作り替えるのかについて、ちょっとお伺いしたいと思います。

議長（中西 康雄君） 谷口教育長。

教育長（谷口 忠夫君） 大西議員のご質問にお答えいたします。書架の予算につきましては新しい書架を購入するということでございます。先ほどのご質問の中にもありました、棚の上に書架の上に高いところに置いてある図書等を、新しく購入した書架の中に収納するというようなことで、現在のスペースをもう少し整理しまして、新しく購入するということでございます。

議長（中西 康雄君） 大西議員。

10番（大西 慶治君） わかりましたけれども、新しくつくるということは、もっと今あるスペースが狭くなるというふうなことだと思います。それから本というのは非常に重いもんでございます。とめてあるのはボルトでしっかりと止まっておりますけれども、本はくりつけてもありませんので、地震等で高いところから落ちてくるというふうなことも考えられるわけで、できるだけ低い書架で子どもたちにもそのしっかりと見られるような、そしてスペースの広いものをお願いしたいというふうに思いますが、できるだけ早く検討するというふうな答弁をせえとは言いませんけれども、そういうふうな気持ちをひとつお聞かせいただきたいと思います。

議長（中西 康雄君） 尾上町長。

町長（尾上 武義君） 一言で言うたらあれもこれもなかなかできやんということなんです、一つひとつ整理しながら、学校の耐震補強もせんならん、橋もせんならん、それは保育園も新しいせんならんとか、色々あるわけですよ。あれもこれもそれができるような、そんな力はないということは、私が言わんでもあなたもようわかってもらとる筈やと思うんですか、そういうことで充実していかんならんけれども、その中でもやっぱり今の状態の中で、増築するというのもちょっと中途半端なことになりかねないということで、ちょっと広げたらまた次々欲しなってくるのはもう人情なんです。

ですのでやる時はもっと抜本的に考えてかないかなとは思っておるんです。思っておるんですが、どこほどの金でするんだよとなった時に、またはたとそこで困るんですよね。いま公共施設を利用できないかと、この役場もいうたら一角も考えなあかんやないかということも、頭の片隅にあるわけですわ。そういうようなことも考えながらはやってかんならんという、もうそれは日進公民館も就業センターも中央公民館も早う建て替えてくれというのは、目白押しの要望が来ておるわけですよ。

どんどん使っていただいておる、利用率も高いという中で、図書館もそうやふないかいう、あれもこれもいけません、それかこれかの時代になっておるとのことだけご認識いただきたいと思います。

議長（中西 康雄君） 暫く休憩します。

再開は2時ちょうどいたします。

（午後 1時 50分）